

県南地帯における秋どりブロッコリーの2花蕾どり栽培法

(農試県南分場)

1. 背景とねらい

転換畑を長期間安定的に利用する、高収益利用体系の確立のために、県南地域で作付の多い、レタス、えだまめ、ブロッコリーの組合せについて検討している。その中で、特にブロッコリーは、春レタスの後作として注目され、作付面積が伸びつつある。今回高収益利用体系確立の試験の中で、秋どりブロッコリーの2花蕾どり栽培法について検討を行い、増収のための知見が得られたので、指導上の参考に供する。

2. 技術の内容

- ①普通栽培と同様に育苗し、本葉3葉～4葉時に本葉2葉を残して摘芯する。その後、1週間程度育苗して定植し、定植後発生してきた側枝を、2本仕立てとして最終的に2花蕾どりとする。
- ②密植にしすぎると、花蕾の伸びが悪くなる場合があるので、植え付け株数は普通栽培の8割程度とし、施肥量は、普通栽培と同程度とする。
この栽培法により、植付株数を減らすことが可能であるとともに、中心規格のL規格品で30～45%程度の増収が可能である。
- ③育苗方式は慣行と同様が良いが、ペーパーポット、または連結ポットを用いると、床土を減らすことができるとともに、苗床面積を少なくすることができ育苗管理がしやすくなる。この場合ペーパーポット10号、あるいは25穴の連結ポット以上の大きさのポットを用いる。
- ④この栽培法は、県南地帯の秋どり栽培で栽培面積が比較的小さく、単位あたりの収量を上げる必要のある場合に適用する。

3. 指導上の留意事項

- ①品種は、頂・側花蕾併用種が適するという報告もあるが、他の品種では未検討なため当面「緑洋」を用いる。
- ②2花蕾の収穫が主となり、側花蕾の発生が弱くなるため、側花蕾の収穫まで行う長期どり栽培には適さない。
- ③ペーパーポットあるいは連結ポットを使用する場合には、育苗期が高温で密植となっているため、苗が徒長しやすいので灌水等育苗管理に注意する。
- ④摘芯時に1葉目が極端に小さかったり、異常な生育をしている場合には、3葉を残して摘芯し、定植時に1本を取り除いて側枝2本とする。
- ⑤定植時に子葉からも側枝が出ている場合には、その側枝を取り除く。

4. 当該事項にかかる試験研究課題名

高収益水田畑作農業の確立

- ①地域重点品目の効率的組合せによる高収益体系の確立

5. 参考文献、資料

平成元年度試験成績概要書
 平成2年度試験成績概要書
 東京農試研究報告(1988)

農試県南分場
 農試県南分場
 東京農試

6. 試験成績の概要

1) 平成2年度2花蕾どり試験

- ①播種：7月3日、NK箱に条播
- ②仮植：播種8日目、5×5連結ポットに仮植
- ③摘芯：2花蕾区では、仮植後13日目(3葉時)に2葉を残して摘芯
- ④定植：播種後30日目(本葉4葉時)
- ⑤試験区の構成

試験区	植付様式	株/10a	施肥量(N:P ₂ O ₅ :K ₂ O/10a)	
2花蕾標肥	畦間90cm×株間40cm	2,777	基肥15:30:15	追肥10:0:10(2回分施)
2花蕾増肥	〃	〃	〃 22.5:45:22.5	〃
2花蕾密植	畦間70cm×株間40cm	3,571	〃 〃	〃
対照	〃	〃	〃 15:30:15	〃

⑥試験成績

表-1 2花蕾どり試験収穫時調査(平成2年)

試験区	収穫期 月/日	全重 (g)	調整重 (g)	短径 (cm)	長径 (cm)
2花蕾標肥	10/1~11/2	1,169	254	9.8	10.6
2花蕾増肥	10/2~11/2	1,227	266	9.9	10.7
2花蕾密植	10/1~11/2	950	226	9.3	9.9
対照	10/1~11/2	1,733	294	10.5	11.2

表-2 2花蕾どり試験規格別収量及び品質(平成2年)

苗の種類	規格外 (大)	2L	L	M	規格外 (小)	L対 照比 (%)	品質(個数%)		
							○	△	×
2花蕾標肥	277 (5)	927 (17)	2,593 (47)	1,205 (22)	555 (10)	145	77	15	8
2花蕾増肥	94 (2)	555 (10)	3,237 (58)	1,571 (28)	94 (2)	181	85	13	2
2花蕾密植	235 (3)	592 (8)	3,092 (43)	1,549 (22)	1,664 (20)	173	68	8	23
対照	178 (5)	1,249 (35)	1,785 (50)	357 (10)	0 (0)	100	83	18	0

注1) 上段は10aあたりの収穫個数、下段は全個数に対する収穫割合

注2) 品質のうち○：品質良、△：販売可能だが品質劣る、×：販売不可能